



SPARC Enterprise™ M4000/M5000サーバ プロダクトノート

XCP 1090版

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス



実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

目次

はじめに	ix
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて	ix
ソフトウェアリソース	ix
マニュアルへのアクセス	x
ご意見をお寄せください	xi
XCP 1090 に関する一般的な情報	1
XCP 1090の新着情報	1
サポートされるファームウェアおよびソフトウェア	2
Solarisパッチに関する情報	3
Solaris 10 5/08用パッチ	3
Solaris 10 8/07用パッチ	3
Solaris 11/06用パッチ	3
XCP 1090へのアップデート	4
XSCFファームウェアのリセット	4
XCP 104xを使用している場合	4
機能の問題と制限	5
SPARC64 VIIプロセッサに関する制限	5
NTPサーバに関する留意点	5
NTPサーバがローカルクロックを参照している場合の留意点	5

一般的な機能の問題と制限	7
ハードウェアに関する情報	10
本体装置設置に関するお願い	10
DVDドライブ／ディスクの使用について	10
USBメモリの使用について	11
電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて	11
ハードウェアに関する問題と回避方法	12
Sun Crypto Accelerator 6000 Cards	12
ハードウェアマニュアルの変更予定	12
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド』（05版）の変更予定	13
XSCFユニットの初期化	13
UPSコントローラー（UPC）の分岐接続	14
接続できる場合	15
接続できない場合	16
ソフトウェアに関する情報	17
XCPに関する問題と回避方法	17
XCP 1090で発生しうる問題	18
XCP 1090で解決された問題	20
XCP 1090以前で解決された問題	21
Solaris OSに関する問題と回避方法	33
すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題	33
Solaris 10 10/09で解決された問題	37
Solaris 10 5/09で解決された問題	38
Solaris 10 10/08で解決された問題	39
Solaris 10 8/07で解決された問題	45
ソフトウェアマニュアルの変更予定	50
システム内の縮退メモリの識別	51

システムボード上の異なるメモリサイズの識別	51
showdevicesコマンドを使用する	51
prtdiag コマンドを使用する	52
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	53

はじめに

本書では、SPARC Enterprise™ M4000/M5000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム(OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<https://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのインストール、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris OSなどのSun Microsystems製ソフトウェア関連マニュアル

<http://docs.sun.com/>

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterpriseマニュアルのサイト:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

XCP 1090 に関する一般的な情報

ここでは、XCP 1090に関する一般的な情報について説明します。

- 「XCP 1090の到着情報」
- 「サポートされるファームウェアおよびソフトウェア」
- 「XCP 1090へのアップデート」
- 「機能の問題と制限」

XCP 1090の到着情報

本リリースでの新しい特徴は以下のとおりです。

- SPARC Enterprise™ M4000/M5000サーバで、SPARC64™ VIIプロセッサ（2.53 GHz）が搭載できるようになりました。
- 新しく以下のコマンドが追加されました。
 - `showdateoffset(8)`

詳細については、`showdateoffset(8)`コマンドのマニュアルページを参照してください。

- 新しく以下のコマンドがサポートされるようになりました。
 - `setsunmc(8)`
 - `showsunmc(8)`

詳細については、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

- 本書の巻末に記載されていた「CPUのアップグレード」は、『SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル』に移動されました。

サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

SPARC Enterprise™ M4000/M5000サーバでは、搭載されているプロセッサによって、サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョンが異なります。

表 1 サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

搭載されるプロセッサ	XCP ファームウェア	オペレーティングシステム
SPARC64 VIプロセッサ	XCP 1040以降	Solaris 10 11/06以降、および必須パッチ
SPARC64 VIIプロセッサ		
2.4 GHz	XCP 1071以降	Solaris 10 8/07以降、および必須パッチ
2.53 GHz	XCP 1090以降	Solaris 10 10/08以降

注 – Solaris™ 10 8/07インストール用DVD では、SPARC64™ VIIプロセッサを搭載したドメインをブートできません。SPARC64 VIIプロセッサを搭載したドメインに対して新規にSolarisオペレーティングシステムをインストールする場合は、Solaris 10 5/08以降のインストール用DVDを使用してください。

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/download/firmware/>

XSCF Webは、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作が確認されているウェブブラウザは、表 2のとおりです。

表 2 動作確認済みのウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Microsoft® Internet Explorer	6.0および7.0
Firefox (Solaris 10)	2.0*

* XSCF WebではFirefox 3はサポートされていません。

Solarisパッチに関する情報

SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバでは、以下の必須パッチが提供されています。

その他のSolaris OSの情報については、33ページの「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

注 – ixページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

注 – パッチは以下に記載されている順番に適用してください。パッチを含めたCPUのアップグレード手順については、『SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル』を参照してください。

Solaris 10 10/08 OS以降を使用している場合は、必要なパッチはありません。

Solaris 10 5/08用パッチ

Solaris 10 5/08 OSを使用しているすべてのSPARC Enterprise M4000/M5000サーバには、以下のパッチが必要です。

- 137137-09

Solaris 10 8/07用パッチ

SPARC64 VIIプロセッサが搭載されたサーバ上で、Solaris 10 8/07 OSを使用している場合には、以下のパッチが必要です。

- 119254-51 以降
- 125891-01 以降
- 127755-01 以降
- 127127-11

Solaris 11/06用パッチ

Solaris 10 11/06 OSを使用している場合は、以下のパッチが必要です。

これらの必須パッチをインストールした場合でも、Solaris 10 11/06 OSではSPARC64 VIIプロセッサはサポートしません。

- 118833-36 (125100-04の前に118833-36をインストールしてください。)

- 125100-04以降
- 120068-03以降
- 123839-07以降
- 125424-01以降
- 125075-01以降
- 125670-02以降

Emulex PCI Express (PCIe)カードのパッチ

以下のEmulexカードは、パッチ120222-26で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA

XCP 1090へのアップデート

XCPを1090へアップデートする場合には、現在使用しているXCPのバージョンによって、以下の点に注意してください。

なお、XCP 1050以降からXCP 1090以降へのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XSCFファームウェアのリセット

ファームウェアをXCP 1090にアップデートしたあとは、`rebootxscf(8)`コマンドを使用して、必ずXSCFをリセットしてください。

XCP 104xを使用している場合

- XCP 1090へ直接アップデートすることはできません。
いったん、XCP 1050からXCP 1070までのいずれかの版数へアップデートしてから、XCP 1071以降へアップデートしてください。XCP 1050からXCP 1070までのいずれかのバージョンへアップデートする手順は、各版数のプロダクトノートを参照してください。

- "admin" という名前のアカウントを削除してください。
"admin" という名前のアカウントは、XCP 1050以降へのアップデートの前に削除しなければなりません。このアカウント名は、XCP 1050以降用に予約されます。アカウントを削除するには、`deleteuser(8)`コマンドを使用してください。

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

SPARC64 VIIプロセッサに関する制限



注意 – SPARC64 VII プロセッサが搭載された CPU / メモリボードユニットを SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに搭載する前に、XCP ファームウェアと Solaris OS のアップデートを完了させておく必要があります。

NTPサーバに関する留意点

- XSCFをドメインのNTPサーバとする場合は、XSCFが参照するDNSサーバおよびNTPサーバのICMPプロトコルをブロックしないように設定してください。
- ドメインはXSCFをNTPサーバとすることを推奨します。この場合、以下の注意が必要です。
 - XSCFは、外部NTPサーバに接続しなければなりません。
 - XSCFのほか、1つまたは複数のNTPサーバをドメインに接続する場合は、XSCFに指定したNTPサーバと同じサーバに接続してください。

NTPの詳細については、当社技術員にお問い合わせください。NTP設定の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

NTPサーバがローカルクロックを参照している場合の留意点

XSCFの参照するNTPサーバが、サーバ自身のシステム時刻(ローカルクロック)を参照し、そのローカルクロックにアドレス「127.127.1.0」が設定されている場合、XSCFで時刻同期できないことがあります。

XSCF自身の持つローカルクロックのアドレスは「127.127.1.0」で固定となっています。いっぽう、XSCFが参照するNTPサーバのローカルクロックのアドレスが「127.127.1.0」に設定されていると、クロックソース(refid)のアドレスがXSCF自身の持つローカルクロックのアドレスと同じ値になります。このようなNTPサーバは、XSCFの時刻同期の対象から外されます。

showntp -l コマンドを実行すると、XSCFで設定されているNTPサーバ自身のクロックソース、およびXSCF自身のローカルクロックのアドレスが参照できます。

```
XSCF> showntp -l
remote refid st t when poll reach delay offset jitter
=====
192.168.1.2 LOCAL(0) 3 u 10 1024 377 0.000 0.000 0.000
*127.127.1.0 .LOCL. 5 l 28 64 377 0.000 0.000 0.008
```

出力された2つのNTPサーバのうち、上段(192.168.1.2)はsetntp(8)コマンドで設定されたNTPサーバです。refidがLOCAL(0)となっているため、このNTPサーバのクロックソースには、アドレスが「127.127.1.0」のローカルクロックが設定されています。いっぽう、下段はXSCF自身のローカルクロックです。XSCF自身のローカルクロックのアドレスは「127.127.1.0」で固定となっています。これにより、NTPサーバ(192.168.1.2)はXSCFの時刻同期の対象から外れてしまうため、XSCFは自身のローカルクロックに時刻同期することになります。

いずれかの方法で回避することより、setntp(8)コマンドで設定したNTPサーバと正しく時刻同期できるようになります。

- XSCFに設定されているNTPサーバが参照するクロックソースを変更する

showntp -l コマンドを使用して、XSCFに設定されているNTPサーバのクロックソースを確認します。refidがLOCAL(0)と出力されるNTPサーバは、アドレスが「127.127.1.0」のローカルクロックを参照しているため、別のクロックソースを参照するように変更してください。

NTPサーバのクロックソースを変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

- NTPサーバのローカルクロックのアドレスを変更する

XSCFが参照するNTPサーバの、ローカルクロックのアドレスを「127.127.1.1」または「127.127.1.2」または「127.127.1.3」に変更します。Solaris OSの/etc/inet/ntp.confを変更します。変更を有効にするには、NTPデーモンの再起動が必要です。

NTPサーバのローカルクロックのアドレスを変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

- NTPサーバのstratum値を変更する

XSCFが参照するNTPサーバのstratum値を1に変更します。stratum値が1のNTPサーバは最上位のクロックソースとなり、refidは持ちません。したがって、XSCF自身のローカルクロックのアドレスと同じになることはありません。

NTPサーバのstratum値を変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

一般的な機能の問題と制限



注意 – 動的再構成 (DR; Dynamic Reconfiguration) およびホットプラグに関する問題については、33 ページの「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

- 消費電力および排気量を出力するための以下の機能は、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバではサポートされていません。
 - showenvironment(8)コマンドのpowerおよびairオペランド
 - XSCF Web

注 – コマンドまたはメニューを実行すると、無効な値が出力されます。SNMPエージェント機能でも消費電力と排気量の無効な値が取得されます。

- SPARC Enterprise M4000/M5000サーバは、停止交換で使用します。CPUモジュール (CPUM)、メモリボード (MEMB)、I/Oユニット (IOU) およびXSCFユニットの活性交換はサポートされていません。
- XSCF ブラウザユーザーインターフェース(以降、XSCF Web)では、PCIボックス管理機能はサポートされていません。
- setarchiving(8)、showarchiving(8)コマンド、およびXSCF WebのLog Archivesメニューによるログアーカイブ機能は現時点ではサポートしていません。
- 外部電源制御装置 (F7973RC1) の外部電源制御インターフェース (EPC)を使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP cards (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを3枚まで使用することができます。
 - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP cards (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。

- PCIボックス内ではカードを4枚（PCIe I/Oポートごとに2枚）まで使用することができます。
- SPARC Enterprise M4000サーバのドメイン内では、カードを4枚まで使用することができます。
- SPARC Enterprise M5000サーバのドメイン内では、カードを8枚まで使用することができます。
- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。
root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、default
- XSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7:
[ツール]-[インターネット オプション]-[詳細設定]タブにある「暗号化されたページをディスクに保存しない」をチェックします。
 - Netscape 7.1以降:
[編集]-[設定]-[詳細]-[キャッシュ]-[キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較]の項目で「ページにアクセスするたび」を選択します。
 - Firefox 2:
アドレス欄に「about:config」と入力し、フィルタ欄に「cache」と入力します。リストにある「browser.cache.check_doc_frequency」の設定値を「1」に変更します。
- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上にSession ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアアップデートの際にInternal Server Errorが表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続しなおしてください。
- XSCF Webを使用する時、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。
- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- CODボードに対してDR操作をしているときに、addcodlicense(8)、deletecodlicense(8)、setcod(8)コマンドを実行しないでください。
- restoredefaults(8) コマンドは、現時点ではサポートされていません。

- snapshot(8) コマンドの -e、-P、-l オプションは現時点ではサポートされません。

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「本体装置設置に関するお願い」
- 「DVDドライブ/ディスクの使用について」
- 「USBメモリの使用について」
- 「電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて」
- 「ハードウェアに関する問題と回避方法」
- 「ハードウェアマニュアルの変更予定」
- 「UPSコントローラー (UPC) の分岐接続」

本体装置設置に関するお願い

SPARC EnterpriseM4000/M5000サーバに添付している電源ケーブルのプラグ (NEMA L6-20) の外形寸法は、以下のとおりです。

プラグが干渉しないことを、設置先の入力電源環境にて、事前にご確認ください。

- プラグ接続部外径：50 mm
- プラグカバー部最大外径：57 mm
- 接続面からのプラグカバー部長さ：69.9 mm

DVDドライブ/ディスクの使用について

本体装置に搭載されているDVDドライブを使用する際の注意事項があります。次のWebサイトから「SPARC EnterpriseでのDVDドライブ/ディスクの使用について」を参照してください。

URL:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

USBメモリの使用について

`dumpconfig(8)`、`restoreconfig(8)`、`snapshot(8)`コマンド実行時に、データの保存先としてUSBメモリを指定する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリをご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモリの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性および動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCFファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。そのような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。

XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリを接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラーの要因となる場合があります。

電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて

RCI機能によるリモート電源制御や自動電源制御機能（APCS）使用時の電源投入／切断は、オペレーターパネルのモードスイッチを切り替えて制御できます。詳細は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル』 「はじめに」の「制限および注意事項」を参照してください。

ハードウェアに関する問題と回避方法

Sun Crypto Accelerator 6000 Cards

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000カードドライバの正しいバージョンを使用していない場合は、SCA 6000カードのホットプラグ操作で、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバがパニックまたはハングアップを起こします。必要なbootstrapをアップデートしたあとのファームウェアとSCA 6000ドライバのバージョン1.1によって、ホットプラグ操作がサポートされます。SCA6000ドライバのバージョン1.0はホットプラグをサポートしていないため、ホットプラグ操作を行わないでください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのハードウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のハードウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 3 では、マニュアルの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールガイド (05版)	2-5	「表2.3 電源プラグとコンセント形状」以下の注記を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に20Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
	3-6	「3.3.2 XSCFユニットの初期化」を変更します。13ページの「XSCFユニットの初期化」を参照してください。

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ イン ストレーションガイド』 (05版) の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ のインストールガイド』 (05版) の情報よりも優先されます。

XSCFユニットの初期化

ここでは、3-6ページ「3.3.2 XSCFユニットの初期化」を変更します。

XSCF のすべての機能を使用するには、さまざまな設定を行う必要があります。

1. 必須の設定だけを行います。

これらを設定する方法の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバXSCF ユーザーズガイド』の「XSCFの設定」の項を参照してください。次の設定が必要です。

- XSCFユーザーアカウント、パスワード、およびユーザー権限の登録(adduser、password、setprivileges)
- 保守作業員 (FE) のユーザーアカウント (保守用)
- 日付と時刻の設定 (setdate、settimezone)
- XSCFホスト公開鍵の確認 (showssh)
- SSH/telnetの設定 (setssh、settelnet)
- ネットワークインターフェース、ルーティング、およびDNSに関連する設定 (setnetwork、setroute、setnameserver など)

注 - applynetworkコマンドおよびrebootxscfコマンドを使用してXSCFユニットをリセットしてください。

- ドメイン/ サービスプロセッサ間通信プロトコル(DSCP)の設定 (setdscp)
- 高度設定 (setaltitude)

注 - 高度設定を適用するには、setaltitudeに続けてrebootxscfを実行する必要があります。

- 二系統受電のオプション設定 (setdualpowerfeed)

注 - setdualpowerfeedによる変更内容を適用するには、本体装置の電源再投入を完了 (すべての電源コードを取り外して電源切断後、再投入) する必要があります。本体装置に電源コードを再接続する前に、必ず30 秒以上待機してください。

XSCF の初期設定を行うには、XSCF のデフォルトユーザーアカウントを使用します。ユーザー環境のユーザーアカウントを登録するまで、デフォルトユーザーアカウントとデフォルトパスワードでログインします。デフォルトユーザーの権限は、useradmおよびplataadmです。

- 手順1 で設定したユーザーアカウントおよびパスワードを使用してXSCF シェルにログインします。

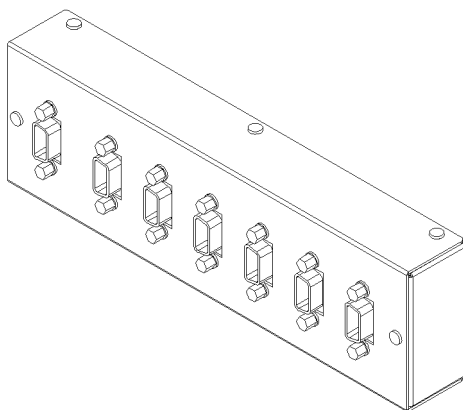
ユーザーアカウントにログインする方法の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

UPSコントローラー（UPC）の分岐接続

UPC 6分岐コネクタを使用すると、最大6台の無停電電源装置（UPS）を接続できます。

UPC 6分岐コネクタの外観図を [図 1](#) に示します。

図 1 UPC 6 分岐コネクタ



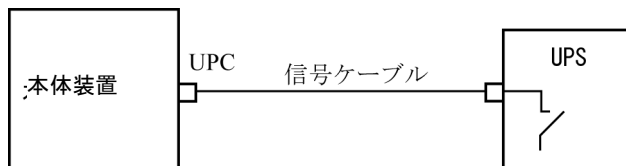
本体装置のUPCは、以下に説明している条件を満たせば、分岐コネクタを使用して複数台のUPSに接続できます。ここでは、本体装置のUPCの分岐接続の条件について説明します。

接続できる場合

UPSと本体装置が以下の接続形態の場合には、信号ケーブルを接続できます。

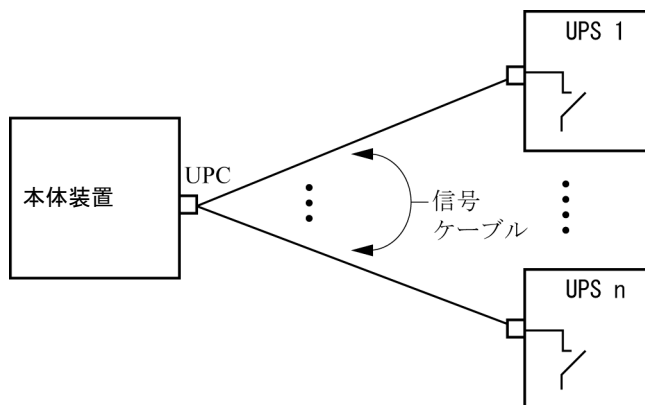
- 1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（[図 2](#)参照）
- 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合（[図 3](#)参照）

図 2 UPS と本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



重要 – 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合、本体装置からの送出信号（ER信号）の条件によっては、信号ケーブルが接続できないことがあります。この接続形態で接続する場合には、当社技術員にご相談ください。

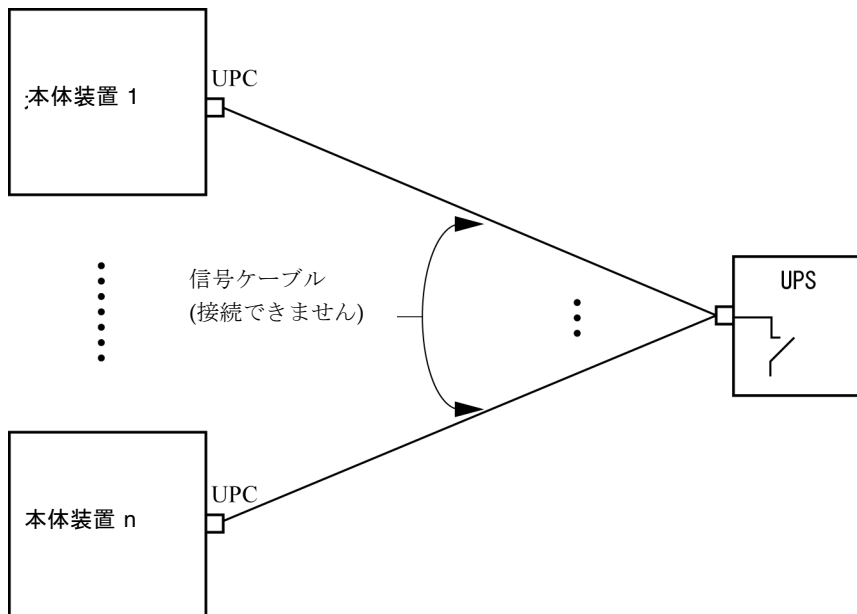
図 3 UPS と本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合)



接続できない場合

複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 4参照）、UPSと本体装置との信号ケーブルの接続はできません。

図 4 UPS と本体装置との信号ケーブルの接続ができない場合
(複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのソフトウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [「XCPに関する問題と回避方法」](#)
- [「Solaris OSに関する問題と回避方法」](#)
- [「ソフトウェアマニュアルの変更予定」](#)
- [「システム内の縮退メモリの識別」](#)
- [「システムボード上の異なるメモリサイズの識別」](#)
- [「ターゲットボードのカーネルメモリの識別」](#)

XCPに関する問題と回避方法

この章では、XCPに関する問題について記載します。[表 4](#)、[表 5](#)、[表 6](#)はご使用のXCP版数によって発生しうる問題を示しています。

XCP 1090で発生しうる問題

表 4 に、XCP 1090で発生しうる問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 4 XCP 1090 で発生しうる問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、プロセスダウン、watchdogタイムアウトまたはハングアップが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、全ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入（AC OFF/ON）を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、全ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入（AC OFF/ON）を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-071102-002	snmpデーモンが終了する場合があります。	setsnmp enableコマンドを実行し、snmpデーモンを再起動してください。
RTIF1-080725-001	setsnmp adv3traphost を実行した場合、Trap ホストが動作していない、ユーザー名やパスワードの間違いなどの理由で、認証に失敗すると、以降のSNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。 SNMP TRAP ホストが起動されていることを確認の上、正しいユーザー名で setsnmp(8) コマンドを再度実行してください。
RTIF1-080725-002	SNMPv3 トラップを設定している場合、XSCFで watchdog timeout が発生し XSCF がリセットされると、以降のSNMP Trap が通知されません。	XSCF をリセットしてください。
RTIF1-081006-011	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable
RTIF1-081225-001	settimezone -c adddstコマンドで、タイムゾーンの略称とサマータイム名を8文字以上に設定すると、showlogsコマンド実行時に Segmentation faultが発生し、コマンドが異常終了します。	タイムゾーンの略称とサマータイム名は7文字以内で指定してください。
RTIF1-090108-003	XSCF Webで表示されるLast Updateの日時が更新されない場合があります。	ブラウザ画面を更新してください。

表 4 XCP 1090 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-090427-002	XSCFのリセットあるいは切り替え発生後に、LDAPサーバを使用したXSCFへのログインができなくなります。	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、アクティブXSCFへ初期アカウントでログインしてから、以下のコマンドを実行し、証明書チェーンを再インポートしてください。 <code>'setldap -c <remote file>'</code>
RTIF1-090427-004	LDAPサーバの設定において、XSCF WebとXSCFシェルの設定可能文字数が一致していません。XSCF Webでは128文字までしか入力できません。	129文字以上を設定する場合はXSCFシェルを使用してください。
RTIF1-090427-005	setpasswordpolicy(8)コマンドで Different Charactersに "9999999999"(10桁)を設定したあと、showpasswordpolicy(8)コマンドで表示すると"-1"になってしまいます。	有効な回避方法はありません。 XSCF Webを使用してください。
RTIF1-090729-001	sethttps(8)コマンドで自己署名されたWebサーバ証明書を作成する場合、指定したパラメータの総文字数が100文字を超えるとinternal errorとなり、Webサーバ証明書の作成に失敗することがあります。	指定するパラメータの総文字数を100文字以下にして、sethttps(8)コマンドを再実行してください。
RTIF1-090824-001	以下のどちらかの条件下では、コンソールにエラーメッセージ (ereport.chassis.software.core) が出力され、コアダンプすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • adduser -u uidコマンドで、ユーザーIDに65536より大きい値を指定してXSCFアカウントを作成した場合 • UIDに65536より大きい値を持つ、LDAPアカウントを使用した場合 	ユーザーID (UID) の値が100から60000までのユーザーアカウントだけを使用してください。これは、XSCFコマンドのadduser(8)コマンドで自動的に割り当てられるUIDの範囲に相当します。

XCP 1090で解決された問題

表 5 に、XCP 1090で解決された問題を示します。

表 5 XCP 1090 で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-081006-005	XSCF Webのネットワーク設定では、 <code>setnetwork -r</code> コマンドに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名に <code>localhost</code> や <code>localdomain</code> を指定すると" <code>SessionID has expired</code> "とエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで <code>setnetwork -r</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-090108-001 6440061	ドメインのコンソールに、 <code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code> というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
RTIF1-090430-001	XSCFで <code>https</code> の設定(自己認証局)後にWebサーバ証明書を作成しても、 <code>https</code> が有効になりません。	自己認証局を設定する場合は、空白文字を指定しないでください。
RTIF1-090427-001	XSCFとSolaris OSが通信を行うための装置内ネットワークインターフェース(ppp)が、正常な状態であるにもかかわらず、SNMP MIBで異常(ダウン)状態と通知されます。	有効な回避方法ははありません。
RTIF1-090122-001	PSUが復電する前に、" <code>Power recovery</code> " のメッセージが表示されます。	" <code>Power recovery</code> " のメッセージが表示されたあとに、ほかのPSUの電源を切断する場合は、60秒待ってください。
RTIF1-090508-001	10 Gigabit Ethernetカード(SE0X7HE1F)が搭載されたドメインで、 <code>OpenBoot PROM</code> 環境変数 <code>diag-switch?</code> を <code>true</code> に設定していると、コンソールに以下のワーニングメッセージが出力されるとともに、エラーログに" <code>Msg: Device error (FCcode informed error)</code> "が記録されます。 <code>WARNING: /pci@7,700000: FCODE map-in doesn't match decoded register type;</code> また、 <code>showstatus(8)</code> コマンドを実行すると、該当するカードが搭載されたFRUに対して" <code>Degraded</code> "と表示される場合があります。	これらすべての出力は無視しても差し支えありません。 これらの出力を回避する場合は、 <code>ok</code> プロンプトで以下のコマンドを実行し、 <code>OpenBoot PROM</code> 環境変数 <code>diag-switch?</code> を <code>false</code> に設定してください。 <code>setenv diag-switch? false</code>

XCP 1090以前で解決された問題

表 6 に、XCP 1090以前で解決された問題を示します。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-004	XCPファームウェアをアップグレードする場合は、ドメインの電源が切れている必要があります。	flashupdate(8) コマンドを実行する前に、ドメインの電源を切ってください。
RTIF1-070418-005	ブート中のSCFにログインすると、XSCF>プロンプトの代わりにbash\$プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$プロンプトをログアウトし、XSCFがブートを完了するまで待ってください。
RTIF1-070418-010	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスがPowered Offと表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboardsコマンドを使用して、ドメイン電源のステータスを確認してください。 showdomainstatusコマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
RTIF1-070418-011	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	set* コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約30秒以内に完了します。
RTIF1-070418-012	fault (memory.block.ue)が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中にuncorrectable error が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
RTIF1-070418-020	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損した（たとえばインポート中にブラウザウィンドウが閉じられた）場合、後にflashupdate コマンドで内部エラーが報告されることがあります。CR ID6537996 も同様です。	コマンドgetflashimage -d を使用し、破損したイメージを削除します。必要に応じて、XSCFユニットをリセットしてから、再度flashupdate コマンドを使用して内部エラーをクリアします。
RTIF1-070418-021	moveboard(8)コマンドを使用してCODボードを移動しようとする、失敗することがあります。	moveboard(8)コマンドの代わりに、deleteboard(8)コマンドとaddboard(8)コマンドを使用して下さい。
RTIF1-070418-022	XSCFファームウェアが自身をモニターし、何らかの異常を検出すると、強制的にリブートします。	XSCFユニットのリブートを完了させてください。およそ5分以内に通常動作に戻ります。
RTIF1-070418-023	rebootxscf(8)を使用すると、process down errorになることがあり、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性がります。	このイベントは、無視してください。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-025	showaudit all コマンドが、データベースのクリア後、policy sectionにdefaultsの長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください。 setaudit -a opl=enable setaudit -a opl=default
RTIF1-070528-001	Solarisの/etc/ttydefsファイルを編集して、コンソールフロー制御を無効にした場合、中継サーバを経由のtelnetではコンソールフロー制御を無効にすることができません。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-070802-001	telnetした時、loginまたはpasswordプロンプトが表示されません。	telnet接続を一度切断し、再度telnetしてください。
RTIF1-070823-001	XSCF Webを使用してsnapshot画面で、SSHを選択したとき、Host, Directory, ID, Passwordの入力可能文字数がXSCFシェルでの入力可能文字数と一致しません。	XSCF Webでの入力可能文字数を越えるような値を指定したい場合は、XSCFシェルを使用してください。
RTIF1-070823-002	XSCF WebでLogical Treeを表示したとき、ドメインの構成に依存して、同一ドメインが複数表示される場合があります。	Menuの項目からSystem Board Configurationを選択し、XSB Status (All)からドメイン構成を参照してください。または、showboards(8)コマンドを使用して、ドメイン構成を参照してください。
RTIF1-070823-003	XSCF WebでLogical Treeを表示したとき、ドメインに割り当てられているCPUやメモリのハードウェア構成が、実際のドメイン構成と異って表示されます。	Menuの項目からDevice Statusを選択してドメインのハードウェア構成を参照してください。または、showdevices(8)コマンドを使用して、ドメインのハードウェア構成を参照してください。
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、XSCFユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなります。	XSCFユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-070824-002	XSCF WebでDomain Mode Configurationを選択し、各設定を行ったとき、ポップアップ画面が表示されず、画面上に"Undefined"が表示される場合があります。	再度、Domain Mode Configurationを選択して設定を行ってください。 または、一旦、XSCF Webを終了させてから、設定を行ってください。
RTIF1-070824-003	XSCF WebでFirmware Update画面からXCPのインポート中に、REFRESHボタンを実行した場合、"Uploading Now!"のポップアップが消失し、XCPのインポートが異常終了します。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-004	XSCF WebでDomain Status画面から、Domain Component Listに表示されているXSBを選択したとき、選択したXSBが未搭載またはUni-XSBの場合、ポップアップ画面に何の情報も表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-005	XSCF WebでMonitor Message FrameのRefresh Interval値を変更したとき、"Confirmation Domain mode" の不当なポップアップが表示される場合があります。	ポップアップ画面を無視して画面を閉じてください。
RTIF1-070824-006	タブブラウザで同一ホストに対し、異なるユーザー権限のユーザーアカウントで複数ログインすると、最後にログインしたユーザーアカウントのユーザー権限が、ログイン済のページにも適用されてしまいます。	タブブラウザを使用する場合、同一ホストに対して複数ログインしないでください。
RTIF1-070824-007	XSCF Webで設定を変更する場合、確認ダイアログでキャンセルを選択したり、強制クローズすると、元の設定ページが使用できない状態になる場合があります。	Menuの項目から元の設定ページを再選択してください。
RTIF1-070824-008	Domain Configuration画面で未定義のDomain IDを選択するとConfiguration policy情報が前に表示した内容のままとなっています。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-009	System Board Configuration画面でDetailを実行するとMBUのCPUMとメモリのすべてがPSB#0側に搭載されているように表示されます。また、PSB#0の詳細表示において、メモリが22枚+2枚と表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-011	Firefox 2を使用し、Domain Configuration画面のConfiguration policy設定で稼働中のdomainを指定した場合、エラー表示ポップアップのBackボタンをクリックし、情報再表示のための問合せ画面でCancelボタンをクリックするとエラーメッセージ画面のままとなります。	Menuの項目からDomain Configurationページを再選択してください。
RTIF1-070904-002	Snapshot CLIが書き込み保護設定をしているUSBスティックに書き込みを試みると、I/Oエラーとなります。	書き込み保護されたUSBデバイスを使ってshapshot収集を試行しないでください。
RTIF1-070904-003	誤ったドメイン状態が報告されます。ドメインに対し、sendbreak(8)コマンドが発行された後、ドメインが実際には"ok"プロンプトになっても、showdomainstatus(8)コマンドは"Running"の状態を表示し続けます。	回避方法はありません。これは、sendbreak(8)の正しい動作です。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070904-005	NTPサーバと時刻同期ができません。	<p>NTPサーバのstratum値を確認してください。XSCFのstratum値は"5"です。XSCFが参照するNTPサーバは、stratum値が5より小さいサーバである必要があります。参照するNTPサーバを変更した場合は、XSCFをリセットしてください。</p> <p>stratum値が正しく設定されていても時刻同期できない場合は、showntp(8)コマンドにより、表示されるjitter値を確認してください。この値が大きい場合は、XSCFをリセットしてください。</p>
RTIF1-070904-006	ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDRの実行中にXSCFがリポートした場合、一部、またはすべてのXSBで、ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDR処理が中断されてしまう場合があります。	再度、ドメインリセットを実行するか、一旦ドメイン電源切断した後で電源投入を実施してください。
RTIF1-070912-001	不正なSMTPサーバが設定されていると、その後(setemailreportのCLIを使用して)emailサービスを無効化しようとしても、最長30分間ブロックされることがあります。	<p>CLIが完了するのを待ってください。この間、システムの残りの部分は正常に機能します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CLIは、^C で中断することもできます。^C が使用された場合でも、操作(emailreportの無効化)が完了することにご注意ください。 • showemailreportコマンドを使って、サービスが無効化されていることを確認することができます。
RTIF1-070914-001	flushupdate(8)コマンドまたはBUIによりファームウェアアップデート実行中に、getflushimage(8)コマンドまたはBUIによってXCPのimportを実行した場合、ファームウェアアップデートが異常終了します。	ファームウェアアップデート中に、getflushimage(8)コマンドまたはBUIによるXCPのimportを実行しないでください。
RTIF1-070914-002	XSCFの切替えがおこなわれた時、モニタメッセージにActiveになったXSCFUの番号が表示されません。	showhardconf(8)コマンドを実行し、XSCFUの状態を参照してください。
RTIF1-070914-003	XSCFの切替えがおこなわれた時、エラーログに"SCF: Board control error (DMA timeout)" が格納されている場合があります。	有効な回避方法はありませんが、このメッセージは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-005	XSCF WebでInternet Explorer 7 を使用する場合、User Accounts画面において、User Local Accountsに各ユーザーのStatusが表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-006	XSCFのユーザーアカウント名を最長の32文字に設定した場合、ログインはできますが、その後、XSCFシェルを実行またはXSCF Webを操作すると、"Permission denied"が発生します。	XSCFのユーザーアカウント名は31文字以下で設定してください。
RTIF1-070914-007	XSCF WebでInternet Explorerを使用し、Log Archivesを選択したとき、Status of Log Archiving画面にステータス情報が表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-008	XSCF WebでSMTP画面から、POPまたはSMTP-authを選択し、Passwordを入力する時、入力値が"*"で表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-009	XSCF WebでSMTP画面から、POPまたはSMTP-authを選択した時、入力値が空欄でも設定できてしまいます。 さらに、設定できたにもかかわらず、過去に設定した情報が表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-010	XSCF WebでSNMPv3 Security Settings画面からSNMP User-Based Security Model(USM)のAdd UserまたはCopy Userを選択した際、Create or Copy User画面がポップアップ表示されます。 この画面のSNMP Userを16桁以上で設定した場合、正しく登録されますが、ウェブブラウザ画面では15桁までしか表示されません。	SNMP Userを16桁以上で設定している場合は、showsnpusm(8)コマンドを使用してください。
RTIF1-070914-011	XSCF WebでSNMPv3 Security Settings画面からSNMP User-Based Security Model(USM)のChange Passwordを選択したとき、Change Password画面がポップアップ表示されます。 この画面においてConfirm Passwordが入力必須項目であるにもかかわらず、"*Indicates required field"が注記として表示されていません。	Confirm Passwordは入力必須項目であり、必ず設定してください。
RTIF1-070914-012	XSCF WebのSNMP-Properties画面で、Trap Hostを選択せずにRemoveボタンを実行したとき、"The trap host will be removed"の不当なメッセージがポップアップ表示されます。さらに、ポップアップ画面でそのままOKを選択した場合、"Remove trap host failed. setsnmp: invalid trap type"の不当なメッセージが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-013	XSCF WebのAudit-Properties画面で、Add Policyボタンを実行した際、ポップアップ表示されたSet User PolicyのUserにXSCFに登録されていないユーザー名を指定して入力エラーが発生した場合、その指定したユーザー名をクリアするためにResetボタンを実行しても、入力した値がクリアされません。	正しいユーザー名を再度設定するか、Cancelボタンでポップアップ画面を閉じてください。
RTIF1-070914-014	XSCF Webで権限のないユーザーアカウントでSnapshotを選択し、Start timeやEnd timeのパラメータを設定し、Downloadボタンを実行したとき、権限エラーとならず、パラメータエラーが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-015	XSCF WebでUser Managerを選択し、ユーザーアカウントを追加するとき、指定するユーザー名が20文字までしか設定できません。	20文字以上のユーザー名を指定する場合は、adduser(8)コマンドを使用してください。
RTIF1-070914-016	XSCF WebでLDAPを選択し、LDAP設定を行う場合、LDAP Search Timeoutをデフォルト値"0"のままSaveを実行したとき、"LDAP Configuration Update Failed. Save LDAP Configuration Data failed"となり、設定が格納できません。	LDAP Search Timeoutは、"0"は無効な値であるため、必ず 0以外の値を設定してください。
RTIF1-070914-017	XSCF WebでLDAPを選択し、LDAP Search Timeoutに最大値の2147483647秒以上の値を入力した時、パラメータエラーとなりません。	現時点では、有効な回避方法はありません。LDAP Search Timeoutには、最大値の2147483647秒が設定されます。
RTIF1-070914-018	XSCF Webで権限のないユーザーアカウントでLDAPを選択し、Deleteボタンを実行した場合、権限エラーとなりますが、表示されていた設定情報がクリアされ、削除されたように見えます。	設定は削除されていません。設定情報を再度表示する場合は、Menuの項目からLDAPを選択してください。
RTIF1-070914-019	LDAP設定したときのユーザーアカウントと異なるユーザーアカウントで-cオプションを指定してshowldap(8)コマンドでLDAP設定を表示した場合、"Permission denied"が発生します。 また、XSCF WebでLDAP設定の表示した場合、ポップアップ画面に何の情報も表示されません。	XSCF CLIおよびWebで、LDAPの表示および設定操作は、同じユーザーアカウントを使用してください。
RTIF1-070914-020	User Manager画面のUser Account設定ページでパスワードの変更が"Change Password Error"になった時、REFRESHボタンをクリックすると、"No user. The request is aborted."のエラーメッセージが表示されます。	パスワードの変更を行う場合は、MenuのUser Managerを再度選択してしてください。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-021	OpenBoot PROM処理中にドメインの電源を切断すると、Domain hang-up detected (level3) のエラーログが登録される場合があります。	このエラーログは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-023	Device Status画面でモデル毎のサポート外のドメインIDやXSBを指定するとパラメータエラーが表示されます。	モデル毎のサポート対象範囲のドメインID、XSB番号を指定してください。
RTIF1-070914-024	XSCF Webで物理ツリーを表示した時、PCIボックスのlinkカードにWarningが表示されま	現時点ではありません。
RTIF1-070914-026	XSCFがすべてのドメインに対する信頼できるNTPソースとして、時刻同期できない場合があります。	時刻同期できない場合、すべてのドメインはXSCFではなく、外部のNTPサーバを使用してください。
RTIF1-070915-001	Domain Configuration画面でDomain Component Listを新規に定義する場合にパラメータエラーが表示されることがあります。	Domain Component Listを定義する場合はCLIを使用してください。
RTIF1-071102-001	XSCFファームウェアはXSCF自身を監視し、矛盾点を見つけた場合は、XSCFを強制的にリセットすることがあります。	有効な回避方法はあります。XSCFユニットがリセットするまでお待ちください。およそ5分で通常の動作に戻ります。
RTIF1-071116-001	CPU/メモリボードユニットの活性交換 (addfru(8)コマンドまたはreplacefru(8)コマンド)でシステムボードの診断テストを実行せずに交換を終了させた場合、続けてDR操作を行うと、ボードがDRで利用できないという間違ったメッセージでエラーになる場合があります。	addfru(8)またはreplacefru(8)コマンドの保守メニューにある診断テストを必ず実行してください。addfru(8)またはreplacefru(8)コマンドの保守メニューで診断テストを実行し忘れた場合には、testsb(8)コマンドにより診断テストを実行するか、deletefru(8)コマンドでCPU/メモリボードユニットとI/Oユニットをいったん削除してからaddfru(8)コマンドの保守メニューで診断テストを行ってください。
RTIF1-071116-003	COD画面においてcodusageの詳細表示が正しく表示されません。	XSCFコマンド showcodusage(8)を実行して表示してください。
RTIF1-071116-004	Internet Explorer 7 のブラウザを使用すると、ライセンスキーの削除ができない場合があります。	XSCFコマンド deletecodlicense(8) を実行してライセンスキーを削除してください。 または、以下のブラウザを使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 6.0 • Firefox 2.0 or later • Netscape Navigator 7.1 or later

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-071129-001	XSCFコンソールに以下のメッセージが出力され、XSCFが正常に起動できない場合があります。 dbs [xxx]: ERR: scdb_init_all(): xx, No space left on device さらに、以下のエラーログが登録されます。 XSCF process down detected	XSCFユニットを交換してください。
RTIF1-071129-002	リモート装置からSSHコマンドでXSCFシェルコマンドをリモート実行したとき、以下のメッセージが出力されます。 stty: standard input: Invalid argument	回避方法はありません。
RTIF1-071129-003	I/Oの異常により、Solaris OSメッセージに以下のメッセージが出力されたとき、XSCFにはエラーログが登録されません。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-4P, TYPE: Fault	有効な回避方法はありません。
RTIF1-071129-004	以下のメッセージが出力され、Solaris OSがBootできない場合があります。 • Abnormal OpenBoot environment variable Boot process failed • ERROR: Invalid token ' ' FATAL: NVRAM contents corrupt; Reinitializing NVRAM parameters.	設定されているOpenBoot PROM 環境変数の内容を確認してください。設定に異常がある場合は再度設定してください。
RTIF1-071227-001	XSCFで日付/時刻の書き込みが異常になる場合があります。ドメインの電源を投入したときに以下のメッセージが出力され、ドメインの電源が投入できない場合があります。 Poweron canceled due to invalid system date and time.	rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動してください。
RTIF1-071227-002	PCIボックスが接続された環境で、showhardconf(8)コマンドを実行すると、showhardconf(8)コマンドがハングアップしたように見える場合があります。	Ctrl-Cによりshowhardconf(8)コマンドを終了させ、再度showhardconf(8)コマンドを実行してください。
RTIF1-071227-003	Bootデバイスパスに対して、存在しないデバイス名を指定したことでOS Boot異常が発生すると、I/Oユニットのステータスが“Degraded”になる場合があります。	Bootデバイスパスに正しいデバイス名を指定してください。 I/Oユニットのステータスが“Degraded”になった場合は、I/Oユニットを交換してください。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080313-001	<p>XSCFをドメインのNTPサーバとする場合に、ドメインを起動すると以下のメッセージがドメインコンソールに出力され、時刻同期ができない場合があります。</p> <pre>ntpddate[xx]: no server suitable for synchronization</pre>	<p>ドメインのxntpdで設定されているモードによって、以下のどちらかを実行してください。</p> <p>注 - stepモードの場合、時刻を補正することで時刻飛びが発生します。時刻飛びが発生すると、ドメインで稼働中のアプリケーションに影響がでる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • stepモードの場合 <ul style="list-style-type: none"> -wオプションを指定してntpddate(1M)コマンドを実行してください。NTPサーバと同期できるまで、一定の間隔で、ntpddateコマンドがリトライされます。リトライ時には、NTPサーバと同期できなかったことを表すメッセージが出力されますが、無視しても問題ありません。同期が完了するとNTPサーバの時刻に補正されます。 • slewモードの場合 <ul style="list-style-type: none"> -wオプションを指定しないでntpddate(1M)コマンドを実行してください。slewモードでは、0.5ms/秒の間隔で、NTPサーバとの時刻差が補正されます。NTPサーバと同期できなかったことを表すメッセージが出力されますが、無視しても問題ありません。時刻が完全に補正されるまでは、NTPサーバとドメイン間で時刻差が生じています。
RTIF1-080325-001	<p>AC電源を投入したり、rebootxscf(8)コマンドを実行したりした場合に、XSCFへログインできなくなり、オペレーターパネルのPOWERスイッチを押しても電源が投入できないことがあります。</p>	<p>AC電源を投入したり、rebootxscf(8)コマンドを実行したりする前に、XSCF LANが正しく接続され、リンクアップされていることを確認してください。</p> <p>上記の現象が発生した場合は、全ドメインの電源を切断後、本体装置の電源を切断/投入してください。電源を再投入するときは、電源を切断したあと30秒以上待ってから投入してください。</p>
RTIF1-080404-001	<p>XSCFのdeleteboard(8)コマンドおよびmoveboard(8)コマンドを使用してDR操作を行うと、I/Oチャンネルの縮退が確認され、エラーメッセージおよび関連するereportが登録されることがあります。</p> <p>この問題が発生した場合は、fmdump(8)コマンドによって、以下のエラーが間違えて出力されます。</p> <pre>ereport.chassis.SPARCEnterprise.asic.ioc.ch.leaf.fe</pre>	<p>表示されたエラーに対するMSG-IDと実際の動作が一致せず、リセットや縮退が発生しない場合があります。showlogs errorコマンドで表示されるエラーコードを当社技術員までご連絡ください。</p>

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080404-002	setsnmpusm passwdコマンドでパスワードを設定する場合に、8文字未満でパスワードを設定すると、segmentation faultが発生します。	パスワードは常に8文字以上で設定してください。
RTIF1-080512-001	sethostname(8)コマンドのhostnameに"localhost"を指定してから、applynetwork(8)とrebootxscf(8)コマンドでXSCFをリセットすると、XSCFがプロセスダウンします。	sethostname(8)コマンドのhostnameに"localhost"を指定しないでください。
RTIF1-080512-003	Quad-XSBで構成されたドメインに対して、PCIカードの活性増設を行ったあとドメインを再起動すると、それ以降、PCIカードの活性増設ができない場合があります。	PCIカードの活性増設をしないでください。PCIカードの活性増設に失敗した場合は、ドメインを停止してPCIカードを増設してください。
RTIF1-080526-001	システムが多くの故障で圧迫されているときにXSCFのfmdプロセスがハングすることがあります。いちど発生すると、XSCFのfmaに関するコマンドが失敗したり、ハングしたりします。	rebootxscf(8) コマンドでXSCFをリセットしてください。
RTIF1-080620-001	本体装置の電源ケーブルが抜けてしまった場合に、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-080725-003	setdomparam set-defaults オプションで設定される初期値が、OpenBoot PROMの初期値と異なります。 項目 現在の値 期待値 diag-level none(0x00) min(0x20) auto-boot? false(0x00) true(0xff)	OpenBoot PROM プロンプト(ok>)でset-defaults コマンドを実行し、OpenBoot PROM 環境変数を初期値に戻してください。
RTIF1-080725-004	XSCF シェルでサマータイムを設定すると、XSCF Web の Logs メニューで表示される時刻が、正しく表示されません。	有効な回避方法はありません。 XSCF シェルのshowlogs(8) コマンドを使用してください。
RTIF1-080808-001	PRIMECLUSTER ソフトウェアを使用したクラスタシステムにおいて、RCI 装置が 10 台以上で構成されている場合、RCI のビジー状態が一時的に解除されず、以下の syslog メッセージが出力される場合があります。 「SA_pprcir.so to test host host_name failed」	PRIMECLUSTER ソフトウェアのマニュアルを参照し、クラスタの状態を確認します。状態に問題がない場合、メッセージは無視しても差し支えありません。状態に問題がある場合、マニュアルに従って問題を解決してください。
RTIF1-081006-001	"XSCF FMEM write error" のエラーログが記録され、ファームウェアアップデートが失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081006-002	setemailreport(8) コマンドで、SMTP アドレスに 255 文字以上指定するとエラーになります。	SMTP アドレスに 255 文字以上指定しないでください。
RTIF1-081006-004	ファームウェアアップデート中に以下のメッセージが出力され、XSCF がパニックすることがあります。 kernel BUG in jffs2_do_read_inode at fs/jffs2/readinode.c:XXX!	XSCF をリセットしたあと flashupdate(8) コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。
RTIF1-081006-006	XSCF Web でパニックログを表示すると、メッセージの先頭部分から表示されないことがあります。	表示内容が不足している場合は、XSCF シェルで showlogs panic コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-007	password(8) コマンドの [user] オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。	有効な回避方法はありません。 オプションを設定した場合は、user オペランドを指定して password(8) コマンドを実行してください。
RTIF1-081016-001	UPS 装置が停電を検知しても、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-081016-003	Internet Explorer 6 または 7 で、XSCF Web の [Setting]-[Audit] メニューから [Add Policy] を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、[Reset] ボタンをクリックしたあと [OK] ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。 Error Session Error Session ID has been expired	XSCF Web に再ログインしてください。ポップアップ画面の [User] テキストボックス内のテキストを消去する場合は、[Reset] ボタンを使用せずに、BackSpace キーを使用してください。
RTIF1-081030-002	設定されているタイムゾーンの略称が、3 文字でない場合、XSCF Web の Error Log ページでエラーログが表示されません。 また、XSCF Web の Panic Log および IPL Message Log ページのテーブル上部にあるログ採取時刻が "---" と表示されます。	XSCF シェルで showlogs(8) コマンドを使用してください。
RTIF1-081104-001	PCI スロットの異常が検出された場合、監視メッセージログが登録されない場合があります。	有効な回避方法はありません。 PCI スロットの故障情報は、showlogs error コマンドまたは fmdump コマンドで確認してください。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-090108-002	二系統受電構成の場合、片方の電源系統で停電／復電が繰り返り発生すると、全ドメインの電源が強制的に切断されます。また、強制的に電源が切断されたあとの復電時に、PSU構成違反がエラーログに登録され、復電が開始されない場合があります。	電源ケーブルの抜き差しが必要です。
RTIF1-090115-001	settnet -c disableコマンドを実行すると、ただちにTelnetサービスは停止します。ただし、rebootxscf(8)コマンドでXSCFをリセットしないと、次回Telnetサービスを再開する際に、失敗する場合があります。	Telnetサービスを停止した後は、rebootxscf(8)コマンドを実行して、XSCFをリセットしてください。
RTIF1-090220-001	複数の本体装置とI/O装置がRCIで接続されたシステムの場合、1台の本体装置の電源を投入しても、I/O装置の電源が投入されないことがあります。	すべての本体装置の電源を投入してください。
RTIF1-090220-002	XSCFユニットを交換すると、RCIの電源連動設定がデフォルト値にもどってしまいます。	電源連動設定をデフォルト値以外に設定している場合は、XSCFユニットを交換したあとに、setpwrmode(1M)コマンドを使用して電源連動設定を再度行ってください。

Solaris OSに関する問題と回避方法

この章では、Solaris OSに関する情報について記載します。表 7、表 8、表 9、表 10、表 11および表 12はご使用のSolaris OSによって発生しうる問題を示しています。

すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題

リリースされているすべてのバージョンのSolaris OSで発生しうる問題を、表 7に示します。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6459540	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 tape-config-list = "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; "SEAGATE_DAT"と"DAT72-000"の間には、4つの半角スペースがあります。
6466617	PCI-Express スロットのHot Plug操作が速すぎると、PCI リーフのリセットが中断されて、以下のエラーが発生します。 cfgadm: Component system is busy	cfgadm -c コマンドを続けて発行するときは、数秒の間隔をおいて発行してください。
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。インターフェースを手動で再設定する手順の例は、次のとおりです。 <pre># ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up</pre> <p>この回避方法は、/etc/hostname.<interface>ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび/etc/hostname.<interface>ファイルと一致していなければなりません。</p>
6516135	cfgadm(1M)によりデバイスや Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	以下の操作を使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 1) devfsadm (at Solaris prompt) 2) cfgadm
6519290	/tmp (tmpfs) に巨大なファイルや大量のファイルを作成した場合、または、復旧可能な軽度のメモリ不足が発生した場合、スワップデバイスへのI/Oが大量に発行され、システムがスローダウンすることがあります。	以下を/etc/systemのファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 <pre>set maxfastscan=0x2000</pre>
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインでは、DRが失敗することがあります。	/etc/systemに zfs_arc_max パラメータを設定し、ZFSが割り当てられるカーネルメモリ量を減らしてください。以下の例は、512Mバイトに設定しています。 <pre>set zfs_arc_max = 0x20000000</pre>
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	有効な回避方法はありません。
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> • boot -r (at OpenBoot PROM prompt) • devfsadm -C (at Solaris prompt) • cfgadm (twice at Solaris prompt)
6531036	ネットワークインストール後、network initialization failedのエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6531668	DR中にHot Plug処理を多重で実行すると、システムがハングします。	有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。 svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95. svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6565553 6674266	DRのdeleteboard(8)またはmoveboard(8)コマンドによるシステムボードの削除が失敗することがあります。 ドメイン側のメッセージ: drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、DR操作を再度実行してください。
6592302	DR操作が正常に終了しなかった場合は、一部のメモリが組み込まれたままになることがあります。	再度deleteboard(8)コマンドを実行してください。
6619344	以下のカードをスロット 1 に搭載した場合、ホットプラグ操作が行えないことがあります。 • Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000	この問題を回避するために、このカードをスロット 1 に搭載しないでください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu error</code> が発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> が失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されます。</p> <p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</p>	<p>FMA サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当した DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair <i>fnri uuid</i> # fmadm rotate</pre>
6745410	<p>システムを boot しないような <code>kadb</code> のオプションは、ブートプログラムで無視されてしまいます。</p>	<p><code>kadb</code> を使用しないで、<code>kmdb</code> を使用してください。</p>

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6872501	ドメインに対してパッチ139555-08が適用されている場合、XSCFからリクエストを通知しても、コアがオフラインになりません。	故障しているコアを特定するために、XSCF上で、 <code>-v</code> オプションをつけて <code>fmdump(8)</code> コマンドを実行してください。特定されたら、ドメイン上で <code>psradm(1M)</code> コマンドを使用して、コアをオフラインにしてください。

Solaris 10 10/09で解決された問題

Solaris 10 10/09で解決された問題を表 8に示します。Solaris 10 10/09より以前の製品では発生することがあります。

表 8 Solaris 10 10/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6572827	<code>prtdiag -v</code> コマンドでPCIバスのタイプが間違っ て出力されます。PCI-Xリーフデバイスには「PCI」、古いPCIデバイスには「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。
6800734	ドメインで <code>deleteboard(8)</code> がハングアップすることがあります。	有効な回避方法はありません。
6816913	XSCFの <code>showdevices(8)</code> コマンドは、正しい表示が「5.5」のときに「5」と表示するなど、プロセッサのキャッシュサイズ(MB)を間違っ て表示してしまいます。	ドメイン上のプロセッサ情報を表示する場合は、 <code>prtdiag(1M)</code> コマンドを使用してください。
6821108	XSCFをリセットしたあと、DR操作と <code>showdevices(8)</code> コマンドが動作しなくなります。	これは、パッチ 140589-02 で修正されました。 [回避方法] XSCFを2回リセットしてください。最初のリセットでSA（セキュリティアソシエーション）が半分削除され、2回目のリセットで残りの半分が削除されます。2番目の実行が成功したら、IPsec通信が再び確立されます。
6827340	コマンドエラーによって、DRとメモリパトロールが失敗する場合があります。	これは、パッチ142283-01で修正されました。 有効な回避方法はありません。

Solaris 10 5/09で解決された問題

Solaris 10 5/09で解決された問題を表 9に示します。Solaris 10 5/09より以前の製品では発生することがあります。

表 9 Solaris 10 5/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリに対してDR操作を行っているときにXSCFをリセットすると、ドメインがパニックする場合があります。	これは、パッチ139555-08で修正されました。 [回避方法] DR操作中にXSCFをリセットしないでください。DR操作が終了してからリセットを開始してください。
6623226	Solarisのlockstat(1M)コマンドやdtrace lockstat providerで、システムパニックが発生することがあります。	これは、パッチ140336-01で修正されました。 [回避方法] lockstat(1M)コマンドおよびdtrace lockstat providerを使用しないでください。
6680733	Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC)および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に高負荷がかかっていると、パニックを起こす場合があります。	これは、パッチ139570-01で修正されました。
6689757	Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に対して、XFP光トランシーバーをひとつだけ、または誤った方法でインストールしている場合には、コンソールに、以下のメッセージが出力されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	これは、パッチ139570-01で修正されました。 [回避方法] 両方のXFP光トランシーバーがしっかりハウジング内に収まっていることを確認してください。 インテル社製XFP光トランシーバーとSun社製のXFP光トランシーバーを同じアダプタ内に混在させないでください。 ポートがXFP光トランシーバーを含まない場合、あるいは使用されていないトランシーバーを含む場合は、そのポートに対してifconfig plumbを実行しないでください。

Solaris 10 10/08で解決された問題

表 10 にSolaris 10 10/08で解決した問題を示します。Solaris 10 10/08より以前の製品では発生することがあります。

表 10 Solaris 10 10/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6511374	システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。 例: WARNING: Translation error source /LSB0/B0/0, PA 3c000000000, target /LSB0/B0/20000000	これは、パッチ137137-09で修正されました。 このメッセージは無視しても差し支えありません。
6533686	システムリソースが少ない場合、カーネルメモリを再配置するdeleteboard(8)またはmoveboard(8)コマンドのDR操作が、以下のメッセージが繰り返されエラーとなることがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout これは、複数ドメインのホストで、Quad-XSBで構成されたシステムボードだけが該当します。	これは、パッチ138397-01で修正されました。 [回避方法] しばらくしてから、DR 操作を再度実行してください。
6608404	以下のカードをスロット1に搭載した場合にホットプラグ操作を行うと、他のネットワークデバイスがフェイルすることがあります。 X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP	この問題を回避するために、このカードをスロット1に搭載しないでください。

表 10 Solaris 10 10/08 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6614737	<p>以下の条件下において、DRのdeleteboard(8) またはmoveboard(8)コマンドがハングアップすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DIMMが縮退している場合 • 搭載メモリサイズが異なるシステムボードが存在する場合 	<p>これは、パッチ137111-01で修正されました。</p> <p>[回避方法] 上記に該当する場合は、DR操作をしないでください。</p> <p>DIMMが縮退しているかどうかについては、XSCFのshowstatus(8)コマンドで確認できます。詳細は、51ページの「システム内の縮退メモリの識別」を参照してください。</p> <p>各システムボードの搭載メモリサイズは、XSCFのshowdevices(8)コマンド、またはドメインのprtdiag(1M)コマンドで確認できます。詳細は、51ページの「システムボード上の異なるメモリサイズの識別」を参照してください。</p> <p>DR操作がハングアップした場合は、ドメインを再起動してください。</p>
6632549	<p>DR によるシステムボードの追加および削除時に、ドメインの fmd サービスが maintenance モードになることがあります。</p>	<p>これは、パッチ138050-01で修正されました。</p> <p>[回避方法] 問題が発生したときは、ドメインの fmd サービスを再起動してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre>
6660197	<p>ドメインが以下のどちらかの状態の場合は、DR操作がハングする場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1つのドメインが256以上のCPUを含む場合 • メモリエラーが発生し、メモリが縮退している場合 	<p>これは、パッチ138397-01で修正されました。</p> <p>[回避方法] 以下の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. /etc/systemに以下の記述を追加する set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 2. ドメインを再起動する

表 10 Solaris 10 10/08 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>OS 起動中、または Hotplug 機能による PCI ボックスの追加中、または DR 機能による FMEMA 処理中において、コンソールに以下のメッセージが出力される場合があります。</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical</p> <p>...</p> <p>DESC:</p> <p>A problem was detected in the PCI-Express subsystem.</p> <p>Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information.</p> <p>...</p>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>注 - 137137-09 以降を適用する前に、<code>/etc/system</code> から以下の設定を削除してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre> <p>[回避方法]</p> <p><code>/etc/system</code> に以下の設定を追加し、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6720261	<p>ドメインで以下のどちらかのバージョンの Solaris OS が稼働している場合、システムがパニックまたはトラップを起こすことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 5/08 • パッチ 127127-11 が適用された、上記より古いバージョンの Solaris OS 	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>システム設定ファイルである <code>/etc/system</code> に、以下の変数を必ず設定してください。</p> <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>そのあと、ドメインを再起動してください。</p>

Solaris 10 5/08で解決された問題

表 11 にSolaris 10 5/08で解決した問題を示します。Solaris 10 5/08より以前の製品では発生することがあります。

表 11 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6472153	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	<p>Solaris 10 8/07以前をご使用の場合は、パッチ 137046-01で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>インストールした直後にSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします。</p> <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は1回だけ実行してください。</p>
6522433	CPU ハードエラーが発生した後、ドメイン上の <code>fmddump(1M)</code> コマンドで表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	<p>Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127127-11 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>XSCF でシステムステータスを確認してください。</p>
6527811	PCI カードを搭載したPCI ボックスを PCI hotplug で追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の <code>showhardconf(8)</code> で表示されません。	<p>Solaris 10 8/07以前をご使用の場合は、パッチ 128346-01で修正されました。</p>

表 11 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合、これはパッチ125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例：</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre>
6545143	TLBのトラッププロセスがユーザースタックアドレスを見失っている間、システムパニックが発生する可能性があります。問題は、フラッシュウィンドウトラップ(ta 3)を実行しているユーザープロセスと同時に、ユーザースタックがマッピングされない場合に発生します。パニックメッセージは、以下の文字列を含んでいます。 bad kernel MMU trap at TL 2	<p>Solaris 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ127111-08で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>
6545685	OSコンソールに以下のメッセージが表示された場合、以降の再起動において、メモリ縮退もしくはXSB縮退が発生することがあります。 例： mc-opl: WARNING: mc-opl rewrite timeout on /LSB0/B0	<p>Solaris 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ127111-08で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>/etc/systemに以下の設定を行い、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>

表 11 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6546188	以下のカード上でホットプラグ(cfgadm (1M)) およびDR操作(addboard (8) および deleteboard (8))を実行中、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するために hotplug (cfgadm(1M)) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、"WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible" というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] cfgadm -c disconnect を実行し、カードを完全に削除してください。最低10秒間待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。
6559504	以下のカードを使用すると、コンソール上に、"nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn" という形式のメッセージが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] このメッセージは無視しても差し支えありません。
6564934	以下のネットワークカードを使用している場合、カーネルメモリを含むボードに対してDRのdeleteboard(8)コマンドを実行すると、接続が壊れてしまいます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] DR操作が完了したら、影響するネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、ipconfigのマニュアルページを参照してください。
6568417	CPU DR deleteboard(8) 操作が正常終了後、以下のネットワークインターフェースを使用中に、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127111-02 で修正されました。 [回避方法] /etc/system に以下を追加し、システムを再起動してください。 set ip:ip_soft_rings_cnt=0

表 11 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6571370	<p>以下のカードを使用すると、ストレステストでデータ破壊が起こる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。</p> <p>[回避方法] /etc/systemに以下の1行を追加して、システムを再起動してください。 set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</p>
6589546	<p>prtdiag(8)コマンドは、以下のカードに対して、すべてのI/Oデバイスを表示しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	<p>Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127127-11 で修正されました。</p> <p>[回避方法] すべてを出力する場合は、prtdiag -vコマンドを使用してください。</p>

Solaris 10 8/07で解決された問題

Solaris OS 10 8/07で解決された問題を表 12に示します。Solaris 10 8/07より以前の製品では発生することがあります。



注意 – CR ID #6534471 : カーネルメモリ内ラージ・ページの扱いが不適切なため、予期せぬパニックが発生することがあります。本プロダクトノートに記載されているCR ID #6534471 の回避方法を実施するか、もしくはパッチが入手可能かどうか確認し、ただちにインストールしてください。これは、125100-06 および Solaris 10 8/07 で修正されました。

表 12 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6416224	<p>単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] 複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。</p>

表 12 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6441349	システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-07で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAMに故障が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6496337	uncorrectable error (UE) パニック後、 "cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、手動での診断が必要になります。 例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff-em7-d0	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。 [回避方法] 問題が発生した場合、以下を実施してください。 1. 以下のファイルを削除してください。 # rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis 2. fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd 問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。 # # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis #

表 12 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、CPUがオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法] XSCFでCPUステータスを確認してください。</p>
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>回避方法] 予期しないメッセージが表示されたら、XSCFのshowdomainstatus(8)コマンドでドメインステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>PCI Hot Plugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー (CE) が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] /etc/system に以下の設定を行い、ドメインを再起動してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</p>
6508434	<p>PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。</p>
6509337	<p>s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p>

表 12 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6510861	Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X7SC2F, SE0X7SC2X) を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。	Solaris 10 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-08 で修正されました。 [回避方法] 以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください: set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6520990	Dynamic Reconfiguration (DR) によるカーネルボードの deleteboard(8) コマンドを実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	Solaris 10 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-08 で修正されました。 [回避方法] この問題を回避するために、以下を /etc/system のファイルに追加してから再起動してください。 set drmach:fmem_timeout = 30
6530178	DR の addboard(8) コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインの再起動が必要です。	Solaris 10 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-07 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6530288	cfgadm(1M) コマンドで表示される Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	Solaris 10 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-07 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニック/トラップすることがあります。	Solaris 10 11/06 をご使用の場合、これはパッチ 125100-06 で修正されました。 [回避方法] カーネルメモリ内ラージページの扱いを無効にしてください。/etc/system 内で、変数 heaplp_use_stlb を 0 に変更してください。 set heaplp_use_stlb=0
6535564	DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 または PCI ボックスに対する PCI Hot Plug が失敗することがあります。	Solaris 10 11/06 をご使用の場合、これはパッチ 120011-08 で修正されました。 [回避方法] PCI Hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。

表 12 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例：</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre> <p>これは、Solaris 10 5/08で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合、これはパッチ125369-05で修正されました。</p>
6539084	Solaris 10 11/06 環境下で、Sun 製の PCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプター UTP カード (X4447A-Z) が再起動中に、ごくまれにパニックすることがあります。	有効な回避方法はありません。
6539909	Solaris 10 11/06環境下で、boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下のI/Oカードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OS をインストールしてください。
6542632	driver attachが失敗すると、PCIeモジュールにメモリアリークが発生します。	<p>Solaris 11/06 をご使用の場合は、パッチ120011-09 で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 13 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 13 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアルおよびマニュアルページ	setupfru(8)コマンド	詳細説明に以下の内容が追加されます。 M8000/M9000サーバでは、2つのCPUモジュールが搭載されたCPU/メモリボードユニットをQuad-XSBに設定できます。この場合、CPUモジュールまたはメモリの含まれていないXSBには、システムから"configuration error"が出力されます。
	setdualpowerfeed(8)コマンド	説明に以下の内容が追加されます。 100V電源のM4000/M5000サーバでは、二系統受電モードを使用できません。
	showenvironment(8)コマンド	説明に以下の内容が追加されます。 排気量情報はM4000/M5000サーバではサポートされていません。 説明にある「消費電力情報はM3000/M4000/M5000サーバで表示できます。」という記述は、「消費電力情報はM3000サーバだけで表示できます。」に変更されます。

システム内の縮退メモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、メモリボード#5上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

システムボード上の異なるメモリサイズの識別

ドメイン内に異なるメモリサイズのシステムボードが含まれているかを確認する場合は、以下のどちらかのコマンドを使用して、メモリサイズをリスト表示させることができます。

- XSCF上でshowdevices(8)コマンドを使用する
- ドメイン上でprtdiag(1M)コマンドを使用する

showdevicesコマンドを使用する

1. XSCFにログインします。

2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

以下は他のシステムボードが 16GB のメモリを搭載しているのに対して、システムボード 00-0 は 64GB のメモリを搭載している例を示しています。

```
XSCF> showdevices -d 1
Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
01	00-0	63680	0	0x0000004000000000	260288			
01	01-0	16384	7384	0x0000034000000000	260288			
01	01-1	16384	0	0x0000030000000000	260288			
01	01-2	16384	0	0x000002c000000000	260288			
01	01-3	16384	0	0x0000028000000000	260288			
...								

prtdiag コマンドを使用する

- ドメイン上で、prtdiag コマンドを使用します。

```
# prtdiag
```

以下は異なるメモリサイズを表示した例を示しています。

```
# prtdiag
===== Memory Configuration =====

```

LSB	Memory Group	Available Size	Memory Status	DIMM Size	# of DIMMs	Mirror Mode	Interleave Factor
00	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
00	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
01	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
01	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
03	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
03	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
...							

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboard(8)コマンドまたはmoveboard(8)コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

